

「年金時代の到来」から50年—年金がブームになった頃

年金をめぐるマスメディアの報道は、今日では政策がらみの政治部の報道が多くなってきたが、年金時代の到来から基礎年金の導入に至る、年金が期待と希望を持って語られた当時は、生活情報部等が取り上げることが多く、しばしば読者からの質問に対する回答を交えた制度解説の形をとっていた。

筆者がレギュラーとしてかかわったのはNHK。最初の数年は総合テレビ、土曜日朝の「くらしのけいざい」という番組で、77年から定期的に取り上げ、質問をいただいた視聴者を交え、筆者が制度解説をしながら、年金局の担当課長、ときには大臣にも出演していただき、制度のあり方まで考える番組であった。朝ドラの後の時間帯ということもあって、視聴率はいつも10%を超える高率で、番組終了後は質問が殺到した。年金局で最も出席回数が多かったのは年金課長～企画課長当時の長尾立子さん（後の法務大臣、全国社会福祉協議会会長）、大臣では橋本龍太郎さんや斎藤邦吉さんの出演をいただいたこともある。

質問や要望・意見が殺到すると、番組に反映させるのが公共放送として当然の対応。そういうわけでいつの間にか年金が定例化した。放送当日は社会保険庁にも協力をいただき、本部のほか全国の社会保険事務所で問い合わせに応じる態勢をとっていただいた。特に感心したのはNHKの対応。放置しておけない切実な問題には、年金局・社会保険庁に問い合わせをした上で、スタッフが個別に回答を書いていたことである。

「年金ブーム」の極みとも言えそうな関心の高さを象徴したのが、NHKラジオでの年金相談。基礎年金を導入する85年改正法案が国会に提出されていたこともあり、84年11月末の土曜日には、朝9時から夜11時まで、定時のニュースと相撲中継の時間帯を除き、「まるまる1日年金相談」の特集番組を組んだ。回答者は社会保険庁年金保険部長の長尾立子さんと筆者。殺到する電話に代々木局管内の電話がかかりにくくなり、電話をししばらく控えていただくようお願いしたこともあった。番組の途中では、話題になっている年金改正法案について、お国帰り中の増岡博之厚生大臣にも広島から電話に出ていただいたほか、年金局の浅野史郎さん（後の宮城県知事、慶應義塾大学教授）には法案の趣旨を解説していただくという盛り沢山な内容であった。

この1日年金相談が成り立ったのは、年金局・社会保険庁スタッフの全面的な協力があったからである。かかってくる電話を辻哲夫さん（後の年金局長・事務次官）ほか数人が受け付け、バランスよく取捨選択し、相談の要旨と回答をメモにしてスタジオに回し、複雑なものには長尾さん、簡単なものには筆者が分担してお答えした。これをきっかけにラジオでも定例化することになり、85年から86年の2年間、隔週木曜日午後3時台を年金相談にあて、社会保険庁中央年金相談室のスタッフと筆者が担当した。

放送をもとにした書籍に次の2冊がある。年金ブームの記念碑かもしれない。NHKくらしのけいざい『あなたと年金』1978年12月、NHKラジオセンター『年金相談』1986年3月、いずれも日本放送出版協会刊。

山崎 泰彦（やまさき・やすひこ）

神奈川県立保健福祉大学名誉教授

1945年生まれ。社会保障研究所、上智大学、神奈川県立保健福祉大学を経て、2011年より現職。社会保障制度改革国民会議委員、社会保障審議会委員、社会保障制度改革推進会議委員等を歴任。著書に『社会保障・税一体改革の十年』（社会保険出版社、2021年）など。

